

トラピスト修道院と祈り

10月18~20日の3日間、キリスト教学校同盟に所属する東北・北海道の中学・高校15校の先生方の研修会が、函館で行われました。遺愛が当番校でしたが部分参加も含めて40名以上の先生方が参加し、とても充実した研修会でした。そのプログラムの一つとして、当別の男子修道院であるトラピスト修道院のミサ参加と見学がありました。私はトラピスト修道院の下の駐車場までは何度も行ったことがあるのですが、修道院のなかに入り、修道士とともにミサに参加するのは初めてでした。

トラピスト修道院は1896年11月に開院し、今年で116年目を迎えました。「祈り働け」をモットーにし、朝3時半に起床、3時45分から読書の祈りから始まり、労働とミサを行い、19時15分から晩の祈り、寝る前の祈りをし、20時には就寝するという毎日です。毎日7回の祈りそして労働、労働により自給自足の生活が営まれています。

私達が参加した13時10分のミサの直前に礼拝堂の横の扉から10数名の修道士が入ってきました。ほとんどの修道士は70歳をこえているように見えたが、中には2、3人ほど30代、40代の方がいました。静けさのなかで、修道士とともに祈り、讃美しました。祈りのためだけに全生涯をかけている方々がいることに感動を覚えました。

祈りを捧げていると心が落ち着きます。ある方が、祈ると心に中心軸ができて、ブレない生き方ができるようになると言っていました。ブレない生き方とは、人間が生きていくために必要な生命エネルギーが流れてくる、その根源と結びつくことです。生命の根源とつながることが祈りであり、生命の根源から与えられた生命力により私たち人間は生きている、生かされているのです。

遺愛でも毎朝礼拝が守られ、祈りを行います。自分や家族の幸せだけでなく、仲間のために、遺愛に関わりのある方々のために、苦しみ悩みを抱えている人のために、世界の平和についても祈ります。とても大切な一時です。



トラピスト修道院



トラピスト修道院内



研修会に参加された
先生方

2012年10月22日